

〔隨意錄三〕鴨字方言訓加毛非與鴨鷺一類所謂阿比留也。郭璞云：鷺鴨也。毛氏云：可畜而不能高飛。曰：鴨野生高飛曰鷺。又風俗通云：鷄伏鴨卵，雛成入水而不隨母者異類故也。是應知鴨者此方所謂阿比留也。所謂加毛者，鳧字也。然又禮記疏云：野鴨曰鳧。家鴨曰鷺。依此則其通名也已。鷗亦鳧類。

〔干祿字書平聲〕鳧鳧上正通

〔倭名類聚抄羽族體〕鴨通 本草云：鴨通乃久曾毛鴨屎名也。

〔類聚名義抄九〕鴨鷄 雉今正、カモ、鷄正歟 鶴鶩鶴俗鴨通カモノ 鳥鷺カモ 鴻鵠鵠鴻カモ浮、

〔下學集上氣形〕鴨鳧二字同

〔和爾雅禽鳥〕鳧野鷺並同冠鳧

〔東雅十七禽鳥〕鴨カモ○中 李東壁本草に據るに、鴨は鷺の俗にアヒロといふもの、鳧はカモといふものなり。されど古より此かた鴨をカモと讀むは我國の方言也。鷄は今もタカベと云ひて野鳧の類也。○中舜水朱氏は、鳧は此にいふマカモ也。飛鳧、水鳧、水鴨、野鴨皆同じ頭及び頸に赤毛あるあり。或は黒く、或は蒼く、或は黃黑。これを漂鴨といふ。漂水甚多をいふなり。水胡蘆はコガモ、栗鴨はクロカモといふと云ひしなり。其稱類特に多くして、此俗よぶ所も名品亦多かり、カモの義今知るべからず。

〔倭訓栞前編六〕かも○中

鳧鴨の屬をよむは實は野鴨也。歌に山かけの鴨とよむは鷹の如く遠き國へはわたらず。夏山のかけを求め、涼しき水に隠れ居る故也。上品青首と稱するものあり。史記楚世家注に出たり。詩疏にも綠頭者爲上味と見えたり。小鳧を萬葉集にをかもとよめり。

〔本朝食鑑華和異同〕鴨

本邦之鴨者、華之鳧也。而野鴨、野鷺、鶴沈鳧也。中華之鴨者、本邦之鷺也。而舒鳧家鴨家鳧鷗鴨也。本邦自古以鶴爲小鳧。中華未見有小鳧說。冠鳧本邦有二種、羽白鴨、巫阿伊佐、未詳。石首魚之所化也。